

54. Eleotridae カワアナゴ科 (1回出現、1尾)

Eleotridae gen. sp. カワアナゴ科種不明 (1回出現、1尾)

1973年6月のA-9に全長5.8mm、1尾が出現した。

55. Gobiidae クモハゼ科 (22回出現、75尾)

Leucopsarion sp. ? シロウオ属種不明? (4回出現、7尾)

秋期に出現し、出現海域は東支那海を除く全海域、出現個体の全長範囲は7.0-21.5mmである。

Gunnelichtys sp. (1回出現、17尾)

1973年7月のO-2に全長範囲9.0-18.4mmの17尾が出現した。

Gobiidae gen. spp. クモハゼ科種不明 (17回出現、51尾)

夏期から冬期にかけて出現し、出現盛期は秋期、出現海域は近海域と湾内で、主分布域は湾内である。出現時刻は朝、夕、夜間に多く出現した。出現点の表面水温範囲は23.2-28.8°Cで、26.1-27.0°Cにモードがある。出現個体の全長範囲は4.2-19.2mmでモードは6.17.0mmにある。

Gobiina ハゼ亜目種不明 (18回出現、37尾)

四季を通して出現し、出現盛期は春期、出現海域は東支那海域を除く全海域で、主分布域は湾内である。出現個体の全長範囲は2.9-10.7mmである。沖縄近海に生息するハゼ亜目の魚類は約90種で、今回のハゼ亜目の稚仔魚も多種多様であった。

56. Pomacentridae スズメダイ科

(42回出現、353尾)

Pomacentrus coelestis

JORDAN et STARKS

ソラスズメダイ (1回出現、1尾)

1973年7月のA-9に全長17.8mm、1尾が出現した。

Abudefduf sordidus

(FORSKAL) シマスズメダイ

(1回出現、1尾)

1974年5月のA-7に全長18.0mm、1尾が出現した。

Abudefduf vaigiensis (QUOY et GATMARD) オヤビッチャ (22回出現 (22回出現、62尾)

春期から秋期にかけて出現し、出現盛期は秋期 (9月)、出現海域は東支那海域を除く全海域で、主分布域は近海域である。時刻別の1網当りの出現個体数は図-47に示した通りである。

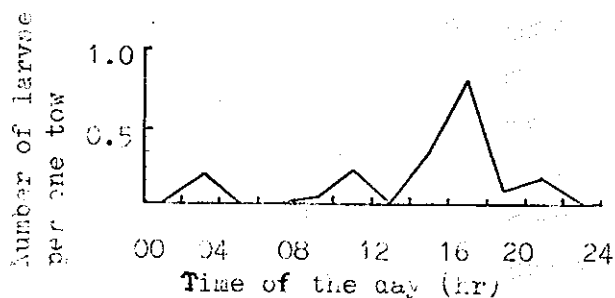


Figure-47 Relationship between time of the day occurrence of larvae of Abudefduf vaigiensis

12時後から夜間にかけて多く出現し、16-18時が最も多く出現した。出現点の表面水温階層別の1網当り出現個体数は図-48に示した通りである。表面水温範囲は23.2-29.6°Cで26-27°Cと28-29°Cに山をもつ双峰型の分布を示した。個体数加重平均水温は27.4°C、出現点数加重平均水温は26.9°Cである。出現

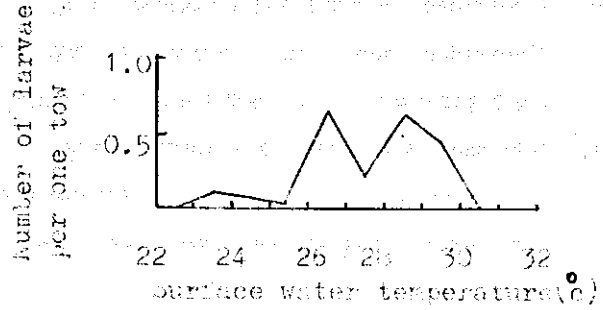


Figure - 48 Relationship between surface water temperature and occurrence of larvae of Abudedefduf vaigiensis

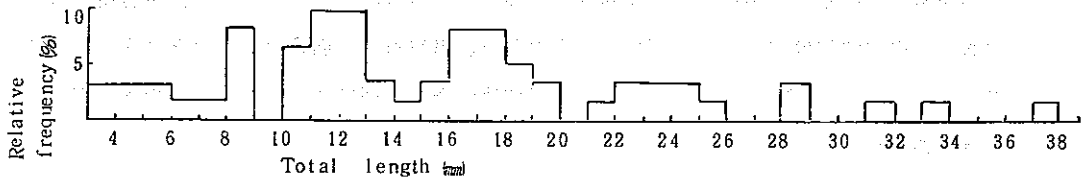


Figure - 49 Total length composition of larvae of Abudedefduf vaigiensis

個体の全長範囲は図-49に示したとおりである。出現個体の全長範囲は3.5-37.5mmで全長範囲が広く、モードは1.1-1.3mmにある。オヤビッチャは流れ藻と共に多くは採集される。

Pomacentridae gen. spp. スズメダイ科種不明 (18回出現、289尾)

沖縄近海には約73種のスズメダイ科の魚種が生息している。そこで今回のスズメダイ科の稚仔魚

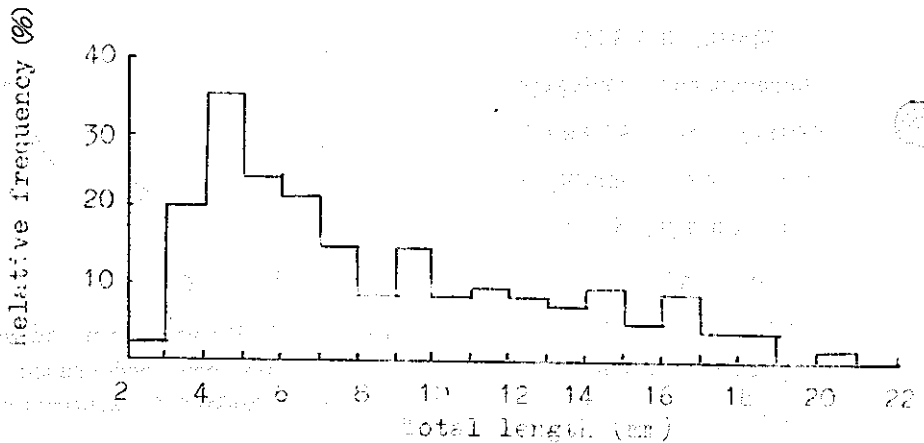


Figure - 50 Total length composition of larvae of Pomacentridae

にも7-8種程が出現した。

四季を通して出現し、出現盛期は春期で全体の86%弱を占めた。出現海域は全海域で、主分布域は湾内である。時刻別の1網当りの出現個体数は午前が少なく、午後と夜間に多く出現した。最多出現時刻は0.4-0.6時である。出現点の表面水温範囲は20.9-29.0°Cでモー